

## 授業の概要 / Course description

### 科目基礎情報 / Course information

開講元学部 / Faculty	共通 / COMMON
開講元学科 / Department	全学共通 / GENERAL STUDIES
登録コード / Registration Code	GSE59106
期間 / Period	2020年度 / Academic Year 4クォーター / 4Quarter
学期 / Semester	秋学期 / AUTUMN
曜限 / Period	水 / Wed 1, 水 / Wed 2
教室 / Classroom	水1 :, 水2 :
科目名 / Course title	国連外交論 / JAPAN'S DIPLOMACY AT UNITED NATIONS
授業形態 / Course Type	講義 / Lecture
科目ナンバリング / Course Numbering	-02j00
レベル / Level	
教員表示名	都築 正泰
主担当教員名 / Instructor	都築 正泰 / TSUZUKI MASAYASU
単位数 / Credits	2
更新日 / Date of renewal	2020/09/10

### 講義概要情報 / Course description

キーワード / Keywords	国連, 国連安保理, 国連総会, 国連事務総長, 集団安全保障, PKO, 平和創造, 平和構築, 国連行財政, 国連改革, 作業方法, 国家安全保障会議 (NSC), 国家安全保障戦略, 平和安全法制, 国際平和協力法, リーダーシップ
アクティブ・ラーニングの実施 / Active Learning	あり / Yes
授業の概要 / Course description	<p>ここでは仮に、あなたが、自分の国の外交官として、ニューヨークにある自国の政府国連代表部に赴任することが決まったとしよう。どのような準備をすれば、あなたは、外交官として国連で成功することができるだろうか。どのようにして、あなたは、自国の国益を国連で最大化できるだろうか。その際、もちろん、自国のコストは必要最小限に留めることが求められる。そもそも、自国にとって国連で得られる利益はどのように見出すことができるだろうか。そのために、あなたには、どのような知見と心構えが必要なのだろうか。</p> <p>さて、国連では、日々、各種文書が多数発出される。あなたの執務机の上にあるインボックスには、毎日配布される多数の国連文書がすぐに積み上がってしまうだろう。他方、どのように国連文書を整理し読み分け、そこから適時必要な情報を得ていけばよいのか。その情報の裏に当事者のどのような利害が読み取れるだろうか。また国連では、毎日絶え間なく、大小様々な公式・非公式の会合が開催される。国連には6つの主要機関があるが、どの機関のどの形式の会合をフォローすべきなのか。また、国連の主要な意思決定の場で、様々、流言飛語が飛び交う中、自国にとって有利な状況や結果を作り出すには、どのように関与すればよいのか。いかにして、利害が競合する他の加盟国を制することができるか。</p> <p>このように、情報過多で疑心暗鬼に陥りやすい国連外交の現場で、日々、適</p>

	<p>時・適切な判断と行動が求められるあなたに対して、「羅針盤」となる基本的知見を提供しようというのが本授業のねらいである。すなわち、国連を国際政治の競争の場としてとらえる視点から、本授業では、まず総会・安保理・事務総長間の権限関係を学び、そのうえで、国連の文書、その検索・分析手法、会合・協議形式、意思決定過程、国連平和活動の動向、そしてそこに内在する加盟国間の政治力学を学び深めていく。また、日本の国連外交も扱う（国際平和協力政策を含む）。さらに、政策実務者、なかでも国連のリーダーに求められる基本的素養は何かについても学ぶ。</p> <p>このようなアプローチによる学修は、将来、外交官を志す場合のみならず、国際機関職員、NGOやNPOの職員、またはジャーナリスト、さらに研究者として国連をウォッチするキャリアに就くうえでも有用な学びの機会となるだろう。本授業では、基本的にZoomを用いた講義が中心となるが、可能な限り、担当教員と履修学生間の双方向による議論により授業が展開されていく（各回の授業のZoom情報はLoyolaを通じて連絡する）。また、状況が許す限り、毎回の授業ではグループ・ワークによる演習の実施を重視する。</p> <p>なお、担当教員は、国連事務局（政務局安保理部）、外務省（国連日本政府代表部等）、内閣府（国際平和協力本部事務局）及び内閣官房（国家安全保障局）での勤務経験を有する。差し支えない範囲で、この実務経験を授業内で共有し、将来、国際協力分野でのキャリアを追求する履修学生の参考となるように最大限務める。（基本的に、下記の授業計画に従って授業を進めるが、履修学生の関心や要望等を踏まえて、要すれば、一部内容を変更する場合がある。）</p>
<p>ディプロマ・ポリシー（DP）との関連（対応するポリシーは、科目開講元のポリシーである。借入れ科目の場合は、カリキュラムマップを参照のこと） ／Correspondence to Diploma Policy of the offering Faculty and Department (Students who belong to other faculties and departments, check Curriculum Map of your faculty and department)</p>	<p>ディプロマ・ポリシーに係る共通事項</p>
<p>到達目標（授業の目標） ／Course objectives</p>	<p>本授業では、具体的に、次の5点を到達目標として掲げる。</p> <p>(1) 国連の組織・機構を知る。国連主要機関のうち、特に、総会・安保理・事務総長間の権限関係が説明できるようになる。</p> <p>(2) 国連の文書を知る。多数の文書から適時必要な情報が得られるようになる。</p> <p>(3) 国連の会合・協議形式を知る。主に、安保理と総会の意思決定過程を理解し、そこに作用する政治力学が分析できるようになる。</p> <p>(4) 国連の活動を知る。国連平和活動の現状と課題について、主要関係加盟国間の政治関係を踏まえた説明ができるようになる。</p> <p>(5) 政策実務者に求められる素養は何か知る。国連においてリーダーを務めた当事者の手記・回顧録等を読み、その当事者が実際にどのような困難に直面したのか、その中でどのような判断を行ったのか、その結果はどうであったのかについて分析を行うとともに、その他に適当な判断があったのか、また自分であればどうするだろうかといった考察ができるようになる。</p>
<p>授業時間外（予習・復習等）の学習 ／Expected work outside of class</p>	<p>（授業前の予習）：事前に、学習支援システム（Loyola等）を用いて、各回の授業内容に関連する参考文献や関係国連文書等を提示する（注：詳細な提示方法は追って通知する）。それを読んで準備したうえで、各回の授業で積極的に議論に参加することが期待される。なお、授業は、可能な限り、担当教員と履修学生の</p>

	<p>間の双方向による議論によって進めていくので、事前に入念な予習が求められる。また状況が許す限り、毎回、グループ・ワークを実施する。</p> <p>(授業後の復習等) : 授業を踏まえ、事前の予習において各自が誤って理解していた事項は何か、また授業を通じて新たに気づいた点、今後理解を深めたい点について各自でメモを整理しておく。また状況を見つつ、授業の理解度の確認を目的としてリアクション・ペーパー課題を出す場合があるので、その際には提出期限までに必ず提出すること。</p> <p>(2回のレポート課題) :</p> <p>① ブック・レポート課題。以下の指定図書(国連におけるリーダー(緒方貞子氏、明石康氏、コフィー・アナン氏)による手記・回顧録)から1点を選び、A4・2枚以内(2,000字程度)で、その本の概要、当該リーダーが直面した困難な政策判断の事例とその際の政策判断の内容と結果をまとめ、その判断が妥当であったのか自分なりの考察をまとめたレポートを作成し、提示された提出期限(注:追って通知する)までに必ず提出にすること。本授業の開講日以前から前広にこの課題に取り組むこと。</p> <p>&lt;指定図書&gt; :</p> <p>a. 緒方貞子『私の仕事 国連難民高等弁務官の10年と平和の構築』(朝日文庫、2017年)</p> <p>b. 野林健・納家正嗣『聞き書 緒方貞子回顧録』(岩波現代文庫、2020年)</p> <p>c. 明石康『「独裁者」との交渉術』(集英社新書、2010年)</p> <p>d. 明石康『カンボジアPKO日記—1991年12月~1993年9月』(岩波書店、2017年)</p> <p>e. コフィー・アナン(白戸純 訳)『介入のとき コフィー・アナン回顧録』(上・下)(岩波書店、2016年)(英語原版: Kofi Annan, Interventions: A Life in War and Peace (2013))</p> <p>② 最終試験(テイクホーム形式)。授業全体を通じて学んだ事項についての総合的な理解度を測る目的で実施する。本授業の最終回時等に出題内容を提示する。それを踏まえ、答案を作成の上、提出期限(注:追って通知する)までに必ず提出すること。</p>
他学部・他研究科受講可否 /Other departments' students	可/Yes ※要覧記載の履修対象とする年次を確認すること。 Please make sure to confirm the student year listed in the bulletin.
評価基準・割合 /Evaluation	出席状況/Attendance (10.0%) 授業参加/Class participation (10.0%) リアクションペーパー/Reaction paper/in-class assignments (10.0%) レポート/Report (70.0%)
テキスト(教科書)/Textbook	自由記述/Free Text : 特段指定しない。(注:課題文献・資料を指定する場合があるが、その詳細については初回の授業で説明する。)
参考書/Readings	自由記述/Free Text : 授業で扱う事項の基本知識を習得する上で、参考書として3点挙げる。
参考書1/Readings1	著者名/Authors : 植木安弘 書名/Title : 国際連合—その役割と機能 出版社・出版年/Publisher.Year : 日本評論社, 2018年
参考書2/Readings2	著者名/Authors : 上杉勇司・藤重博美

	<b>書名/Title</b> : 国際平和協力入門 国際社会への貢献と日本の課題 <b>出版社・出版年/Publisher.Year</b> : ミネルヴァ書房, 2018年
参考書3/Readings3	<b>著者名/Authors</b> : 北岡伸一 <b>書名/Title</b> : 国連の政治力学 日本はどこにいるのか <b>出版社・出版年/Publisher.Year</b> : 中公新書, 2007年
必要外国語 /Required foreign languages	主に英語。様々な国連文書を取り上げていく。

### 講義スケジュール/Schedule

授業計画/Class schedule	1. (※ 基本的に, 下記の授業計画に従って授業を進めるが, 履修学生の関心や要望等を踏まえて, 要すれば, 一部内容を変更する場合がある。) イントロダクション 国連主要機関 (主に総会・安保理・事務局) 間の権限関係
	2. 国連文書の検索・分析手法 (演習を含む)
	3. 安保理の意思決定過程
	4. 総会の意思決定過程
	5. 日本の国連外交①: 日本の国連加盟 (1956年)
	6. 日本の国連外交②: 国連安保理と日本、国連総会と日本
	7. 国連平和活動の現状と課題, 主要関係国間の政治関係
	8. 日本の国際平和協力政策 (国際平和協力法(1992年)、国家安全保障会議(NSC)設置・「国家安全保障戦略」(2013年)、「平和安全法制」(2015年)、法制成立後の政策展開)
	9. 国連事務局の機能・役割
	10. 国連におけるリーダーシップ研究① (コフィー・アナン氏)
	11. 国連におけるリーダーシップ研究② (明石康氏)
	12. 国連におけるリーダーシップ研究③ (緒方貞子氏)
	13. 国連におけるリーダーシップ研究④ (アナン氏、明石氏、緒方氏のリーダー像比較考察)
	14. 総括討論
課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック /Feedbacks to submitted tasks (quizzes, reports, etc.)	履修学生から特段の要望があれば, 個別に対応する。